

## 特別寄稿



### 技術フォーラム'96 仙台を共催して

東北地質調査業協会 企画、実行委員長  
齋藤 芳徳

平成8年9月12～14日、「技術フォーラム'96 仙台」がホテルメトロポリタンで開催され、盛会のうちに無事終了したことは未だ皆さんの記憶に新しいことと思います。全国から地質調査業に従事する500名以上の技術者が参加され、過去最高の発表論文数と参加者数になりました。参加された各地区協会の理事の皆様、関係者の皆様から、内容的にも高い評価を頂き、東北協会の日頃の委員会活動で培われたパワーが充分発揮されたものとホッとしているところです。また地方の技術者の活性化にとっても大変有意義であったと思っています。一緒に努力して頂いた企画委員の皆様、実行委員の皆様、スタッフの方々に改めて深甚の謝意を表する次第です。

「全地連で平成8年度の技術フォーラムを仙台で開催したい意向だが引き受けて良いか」と言う相談を永井理事長より頂いたのは、昨年6月頃と記憶しています。全地連行事の中でも最大のイベントでもあり、果たして大丈夫だろうかと言う危惧もありましたが、近年の東北協会の活発な委員会活動から見て十分なパワーがあると判断し、幸い他の理事の皆さんも積極的な意見が多く引き受けることとなりました。総務委員長の立場から初期の準備の世話を引き受けることとなり、早速理事会での承認を得、当時の藤島副理事長に委員長（途中転勤により齋藤と交代）をお願いし先ず企画委員会を設置しました。また後に設置した実行委員会は、総務財務、技術発表、講演、行事、展示の5部会で組織し、委員には協会委員会の技術者、各県の会員各社の技術者から総勢36名をお願いしました。

過去5回のフォーラムでの経験から、既に全地連による大筋のコンセプトは固まっていたのですが、これに東北協会独自の企画を加え、有意義な大会となるよう企画会議で何度も議論を重ねました。その結果、新しい試みとして「女性技術者の集い」をパネルディスカッション形式で行い、これまでに無い多くの女性技術者が参加し、マスコミにも取り上げられて話題を呼びました。また原田先生のテーマ講演、協会展示（三内丸山遺跡、永井理事長提供の日本の蝶）、オペレーターセッション等の企画、天候には恵まれませんでしたが見学会の企画も、アンケート結果では概ね好評のようでした。フォーラム当日の会場運営もスムーズに行われ、改めて各部会長はじめ委員の皆様の実行力に感じ入っているところです。

最後に兎にも角にも無事終了し、今後の東北協会の運営に貴重な経験と大きな力が得られたものと確信しております。色々と御教示頂いた全地連並びに中国協会の関係者の皆様、東北協会会員各社の皆様に感謝申し上げます。